

令和7年度 公営競技局X方針について

■ 局区X方針とは

(概要)

局長・区長等を中心に局・区の経営的課題を自己点検し、変革課題とその解決に向け当該年度の取組事項を定めたもの。

(目的)

- ・局長級職員のリーダーシップ発揮による自律的な変革の推進
- ・局内職員への変革マインドの意識づけ
- ・外部公表による市政変革に関する市民への理解浸透と検討過程の透明性の確保

なお、取組みの進捗によって、抽象的な課題がより具体化した場合等で、課題の追加・変更が必要となれば、進捗等の公表にあわせて、適宜X方針を修正する。

■ 公営競技局X方針について

(1)課題数 全3件

課題領域	Aレベル	Bレベル	Cレベル
課題数	1件	1件	1件
政策分野	公営競技	公営競技	公営競技

Aレベル……行政サービスにおける現場の改善等にかかる課題

B・Cレベル……政策的な変革課題(Cはより広域、将来を見据え、全庁横断的な視点を要する等)

(2)主な課題・取組内容等

・課題A 売上向上による市財政への貢献(資料1のP3)

- 本市財政(一般会計)への貢献を安定的に継続していくためには、常に売上向上を意識した取組が必要である。
- ボートレース事業においては、通常のナイターよりも大きな売上が得られるミッドナイトレースのレース開催時間の延長や安定的なレース開催のための防風板の早期整備に向けた準備を進めることで、売上向上を図る。

・課題B ファンや地域に愛されるレース場づくり(資料1の P4～5)

- 将来にわたり競輪・ボートレース事業を持続的に実施するためには、レース場を既存ファンのみならず、レース目的以外でも気軽に来場し楽しめる場所にし、ファンのすそ野を広げる必要がある。
- ボートレース場に芝生広場や遊具を備えた地域貢献施設を整備する“ボートレースパーク化”を進めるとともに、施設の老朽化に伴う将来的な改修等にあわせ、魅力あるレース場の整備を進め、既存ファンの確保と新規ファンの獲得の双方を実現する。

・課題C 社会的要因等(国の経済の衰退、大規模災害発生時)への対応(資料1の P6)

- 社会的要因等(国の経済の衰退による全国的な車券・舟券の売上の激減、自然災害で競輪・ボートレース施設が被災した場合等)に対して、事業継続の可否判断、継続の際の緊急・優先的な施設等の復旧、当面の運転資金・復旧資金の確保を行うなど、必要な準備をしておく必要がある。
- 災害時等の施設復旧に係る経費や当面の運用資金を確保するため、売上向上に努めるとともに、競輪競艇整備基金及び建設改良積立金(令和7年度開始)の資金運用を実施する。

1 組織の使命（どのような役割を担うのか）

公営競技局は、令和元年度に10年間を計画期間とする「公営競技事業経営戦略」を策定し、「競輪事業及びボートレース事業の収益金で、将来にわたり北九州市の未来づくりと豊かな社会づくりに貢献していく」という企業理念のもと、①選ばれるレース場、②健全な運営・信頼されるレース場、③親しまれるレース場の3つの柱を掲げ、事業を推進している。

今後も、競輪・ボートレース事業のさらなる売上向上を図り、両事業の収益金を北九州市財政（一般会計）へ可能な限り繰り出し、北九州市の「未来づくりと豊かな社会づくり」に貢献する。

2 基本情報

(1) 令和7年度局全体当初予算額

2,237億円(競輪事業552億円、ボートレース事業1,685億円)

(2) 組織(課名) (R7.4.1付)

総務課、競輪事業課、ボートレース事業課、地域貢献室

(3) 所管の政策連携団体

なし

(4) 所管の主な公共施設(運営方法:直営、指定管理、その他)

直営	・ 小倉競輪場(北九州メディアドーム) ・ ボートレース若松
----	--------------------------------

3 令和6年度局区X方針の振り返り

○全体の振り返り（総評）

「公営競技事業経営戦略」に基づき、①選ばれるレース場、②健全な運営・信頼されるレース場、③親しまれるレース場の3つの柱を掲げ、取組を推進している。これらの取組により競輪・ボートレースとも好調な売上を維持しており、市財政への貢献（一般会計への繰出し）を順調に行うことができている。

○変革が実現した課題・取組内容・市民にもたらされた効果

- ・ 売上を順調に伸ばすことができおり、繰越利益剰余金を活用して、令和7年度予算において一般会計への繰出金を、例年の50億円に加え、「北九州市ボートレースによる未来のまちづくり投資基金」200億円を計上し、総額250億円とした。
- ・ SGボートレースクラシック、GI競輪祭など魅力あるレースを提供し、前年度を上回る本場入場者数となった。

○取組・進捗が十分でなかった項目・内容（理由）・7年度に向けた考え

- ・ 本場入場者数は前年度に比べ増えたものの、依然として競輪・ボートレース共に業界平均に比べ少ない状況にある。
- ・ 好調な売上を維持しており、引き続き ①選ばれるレース場、②健全な運営・信頼されるレース場、③親しまれるレース場の実現に向けた取組を推進していく。

公営競技局 X方針 課題一覧

課題領域A

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
公営競技	(1)売上向上による市財政への貢献	・ ミッドナイトボートレースの開催時間拡大 ・ 防風対策の実施

課題領域B

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
公営競技	(1)ファンや地域に愛されるレース場づくり	・ ボートレースパーク化の推進 ・ 魅力あるボートレース場の整備 ・ 本場入場者数の増加策の検討

課題領域C

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
公営競技	(1)社会的要因等（国の経済の衰退、大規模災害発生時）への対応	・ 事業継続への備え（資金の確保、中央団体との連携等）

【凡例】

○課題領域

- A ・行政サービス現場改善にかかる課題
- B ・課題の掘り起こしが済み、変革の実行段階にあるもの
・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
- C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

4 課題

課題A（1）売上向上による市財政への貢献【政策分野：公営競技】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス 【インパクト:低】 【緊急度:高】

②課題の内容

本市財政（一般会計）への貢献を安定的に継続していくためには、常に売上向上を意識した取組が必要である。

③課題の背景や現状

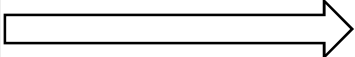
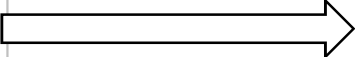
- 【競輪事業】
- ・競輪祭の実質固定開催場としての知名度、屋内レース場での安定開催の優位性を活かし、全国からの集客、SNS等を通じた新規ファン獲得などの売上向上策に取り組んでいる。
 - ・近年、ミッドナイト競輪に参入する自治体が増えたため、本市のミッドナイト開催の売上の伸びが鈍化しているが、一方で民間ポータルによる売上が大きく伸びており、好調な売上が続いている。
- 【ボートレース事業】
- ・令和2年度以降、過去最高水準で舟券の売上額が推移しているが、今後も社会情勢を注視しながら、売上確保に向けた取組が必要である。
 - ・ミッドナイトボートレースを令和3年度から実施（全国で3場のみ）し、将来を見据えた売上の拡大に努めている。
 - ・令和6年度はこれまでにない強風により、6日間開催中止となったことから、安定的なレース開催のために防風板の設置を急ぐ必要がある。

④目指す成果 -市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感)-

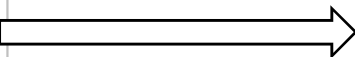
- ・収益を確保することにより、本市財政に貢献する。

⑤令和7年度の取組内容(四半期間隔)

- (1)ミッドナイトレースの開催時間拡大
競合開催が少なく、通常のナイターよりも大きな売上が得られるミッドナイトボートレースについて、レース開催時間を延長し、更なる売上増を図る。
- 【ミッドナイトレース開催時間】
現状 17:00～21:54 ⇒ 変更後 17:00～22:18

第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期(1～3月)
・関係機関、地元との調整		・ミッドナイトレースの開催時間拡大（11月～）	

- (2)防風対策の実施
ボートレースの安定的なレース開催のため、防風板の早期整備に向けた準備を行う。

第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期(1～3月)
		・防風板設置工事の起工に向けた場内関係者、市技術部局等との協議・調整	

4 課題

課題B（1）ファンや地域に愛されるレース場づくり 【政策分野：公営競技】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス 【インパクト:高】 【緊急度:低】

②課題の内容

将来にわたり競輪・ボートレース事業を持続的に実施するためには、レース場を既存ファンのみならず、レース目的以外でも気軽に来場し楽しめる場所にし、ファンのすそ野を広げる必要がある。

③課題の背景や現状

- ・全国的に本場入場者数が伸び悩んでいる中、本市の本場入場者数は全国平均以下となっている。ファンのすそ野を広げるためにも、本場入場者の増加は不可欠である。
- ・令和5年度に実施したアンケートにおいて、特に車券・舟券購入経験の無い人の競輪・ボートレース事業の公益性などに対する認知度が低いため、事業のイメージアップや市民理解の促進などにつながる取組を、積極的に展開する必要がある。

【競輪事業】

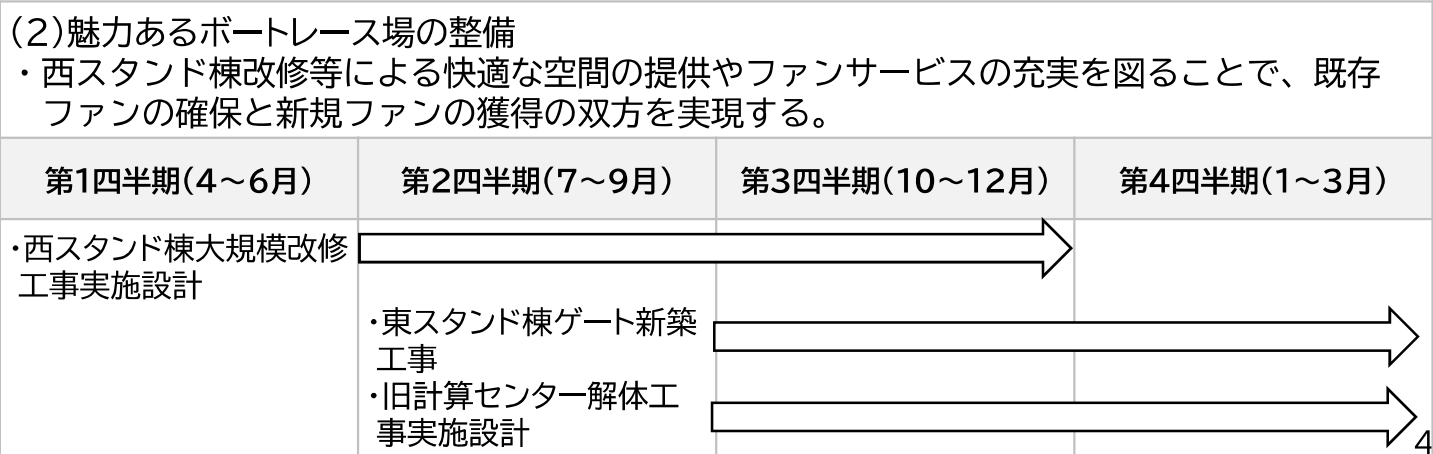
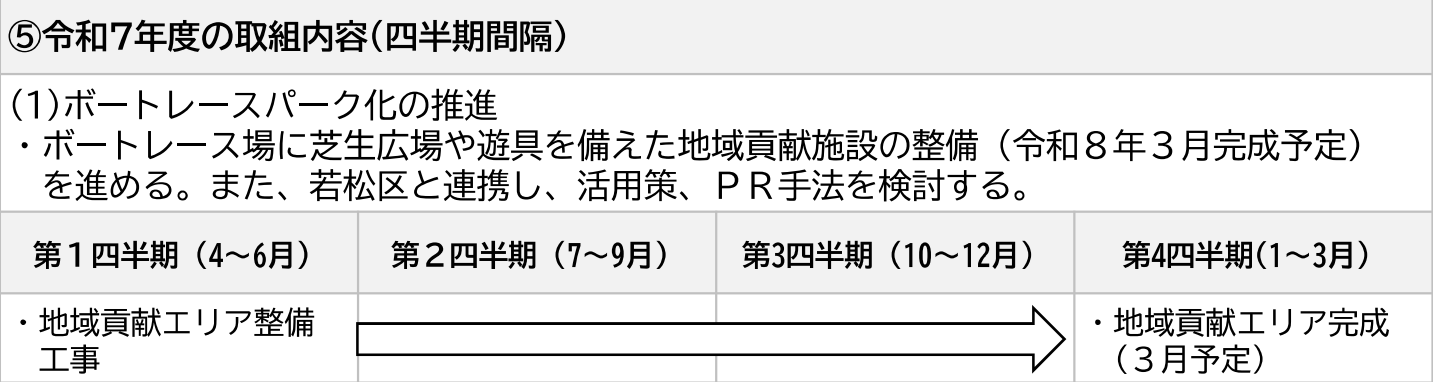
- ・北九州メディアドームは築25年が経過するなど、施設の老朽化が進行しており、将来的に大規模な改修工事が見込まれ、整備内容の検討や改修にかかる財源の確保などが必要。

【ボートレース事業】

- ・ボートレース業界では、中央団体が地域に開かれたボートレース場とするため、レース場に子どもたちが遊べる施設や広場等を整備する「ボートレースパーク化」を推進している。
- ・老朽化した西スタンド棟の改修計画により、新たなファン層の拡大を目指す。

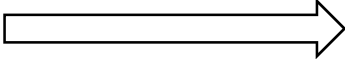
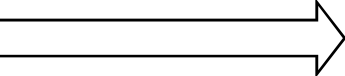
④目指す成果 -市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感) -

- ・施設改修等により、既存ファンの満足度を高めるとともに、新たなファンを獲得し、ファンのすそ野を広げる。
- ・市民がこのまちにレース場があって良かったと実感できるレース場となる。



4 課題

課題B（1）ファンや地域に愛されるレース場づくり 【政策分野：公営競技】

（3）本場入場者数の増加策の検討 ・集客が低下する原因や他都市と比べて低い原因等について分析を行い、有効な打ち手を検討する。 ・子ども食堂や地元向け夏祭り、親子向けイベントの実施など、企業イメージの向上につながる取組を積極的に推進し、レース目的以外でも誰もが気軽に来場し、楽しめるレース場づくりを進める。			
第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
	・入場者数の分析	・有効な打ち手の検討	
・子ども食堂の実施(毎月)			
・親子のつどい	・競輪夏祭りでのスポーツ教室 ・夏休み宿題お助け教室	・競輪祭でのスポーツ教室 ・ボートレース若松感謝祭	・大規模イベント ・親子イベント

4 課題

課題C (1)社会的要因等(国の経済の衰退、大規模災害発生時)への対応【政策分野：公営競技】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス【インパクト:低】【緊急度:低】

②課題の内容

社会的要因等（国の経済の衰退による全国的な車券・舟券の売上の激減、自然災害で競輪・ボートレース施設が被災した場合等）に対して、事業継続の可否判断、継続の際の緊急・優先的な施設等の復旧、当面の運転資金・復旧資金の確保を行うなど、必要な準備をしておく必要がある。

③課題の背景や現状

- ・ 公営競技は収益事業であり、売上激減時や大規模災害等による施設の被災時における事業継続の可否判断は重要である。
- ・ 過去、全国の公営競技の売上は平成3年度をピークに平成23年度には50%以上減少した。
- ・ 本市においても平成12年度から19年度まで、一般会計への繰出しができなかった。
- ・ 大規模災害に関しては、平成28年に熊本競輪が被災し、新規建替えのため、約53億円を要している（今年7月に事業再開）。

④目指す成果－市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感)－

安定的に本市財政（一般会計）に貢献していくため、様々な社会的要因に対応し、事業継続ができるよう備える。

⑤令和7年度 of 取組内容(四半期間隔)

(1)事業継続のための備え

- ・ 災害時等の施設復旧に係る経費や当面の運用資金を確保するため、売上向上に努めるとともに、競輪競艇整備基金及び建設改良積立金（令和7年度開始）の資金運用を実施する。
- ・ 全国的な課題や全国的に売上が激減した場合への対応については、中央団体等と連携しながら、必要な準備等について検討する。

第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期(1～3月)
中央団体等との連携による準備			
建設改良積立金の運用開始			